



友の会だより No.25

(2014年4月28日発行)

自転車文化センター

〒141-0021 東京都品川区上大崎 3-3-1

TEL 03-4334-7953 / FAX 03-4334-7958

Email bccask@jifu.jp

OPEN 9:30~17:00 (最終入館 16:45)

CLOSE 月曜日(祝日の場合は翌平日)・年末年始

5月は自転車月間です!



「サイクルドリームフェスタ 2014」

いろいろ学んで、もっと自転車を楽しもう!

5月5日は自転車の日です。自転車を安全に楽しく乗っていただくための楽しいイベントが盛りだくさん! ご家族・ご友人お誘いあわせのうえ、お出かけください!

日時 2014年5月5日(月祝) 10:00~16:00 雨天中止
会場 聖徳記念絵画館前通り

自転車ライディング講座/自転車体験試乗会/自転車キッズ検定/おもしろ自転車試乗会/
ピーポ君の交通安全教室/発電自転車体験/自転車科学教室/自転車メンテナンス講座 etc

◎タイムスケジュール等、詳細は、同封チラシをご覧ください。



UCI 公認 国際自転車ロードレース

「ツアー・オブ・ジャパン」開催!

今年で17回目を迎えるサイクルロードレース「TOUR OF JAPAN」が開催されます。今年も国内外の16チームが参戦。全6ステージ、総走行距離581.85kmの熱戦をお見逃しなく。

2014年5/18(日)	堺ステージ	2.65 km (個人タイムトライアル)
5/20(火)	美濃ステージ	160.7 km
5/21(水)	南信州ステージ	148.0 km
5/23(金)	富士山ステージ	11.4 km (ヒルクライム)
5/24(土)	伊豆ステージ	146.4 km
5/25(日)	東京ステージ	112.7 km

☞公式HP <http://www.toj.co.jp/2014/index.php>

♡各会場で、「友の会会員証」を提示いただくと大会プログラムを無料で差し上げます。



「自転車博覧会 2014 IN AOYAMA」

Legend【レジェンド】～語り継ぐ一台～

今年のテーマは、Legend【レジェンド】～語り継ぐ一台～。“自転車愛好家にとっておきの一台”を中心に展示や世界各国の珍しい自転車を披露します。故・忌野清志郎さんのオレンジ号をはじめ、谷垣禎一法務大臣、俳優鶴見辰吾さん他、著名人の皆様の思い出と愛情が注ぎ込まれた貴重な愛車が一同に紹介します。

日時 2014年5月3日(土祝)~5月31日(土) 11:00~19:00 会期中無休
会場 伊藤忠青山アートスクエア 港区北青山2-3-1 (シーアイプラザ B1F)

■SPECIAL EVENT: 5月5日(月祝)「親子で楽しむ自転車教室」(13:00~/14:30~ 各回約50分)

☞公式HP <http://www.itochu-artsquare.jp/exhibition/2014/cycle.html>

寄贈資料の紹介

- ・行川様（東京都） 引き札1枚／書籍3点／新聞1種／雑誌2種
- ・山内様（神奈川県） そろばん2点／半纏1点
- ・長谷川様（栃木県） 昭和30～40年代の写真・ネガ・8ミリフィルム14種
- ・芳川様（東京都） 自転車標識1点
- ・井上様（東京都） チェーン・フリーホイール2点

自転車文化センターでは、寄贈された貴重な資料を大切に保管し、随時ご覧いただける機会を設けております。

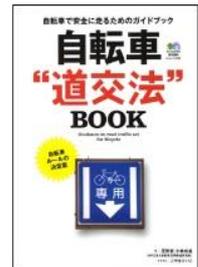
科学技術館入館チケット（招待券）プレゼント！

科学技術館（千代田区北の丸公園）「2F 自転車広場」には、当センター所蔵の歴史的自転車などの常設展示を引き続き行っております。ぜひお立ち寄りください。

♡友の会会員の方に科学技術館入館チケット(招待券)を先着10名様（お一人様2枚まで）に差し上げます。
自転車文化センター(目黒)に来館のうえ、インフォメーションカウンターまで、お申し出ください。

新刊図書のご案内

- 「自転車“道交法”BOOK 自転車で安全に走るためのガイドブック」（疋田智・小林成基／樫出版）
- 「東海自転車散歩 新版」（山と溪谷社・星野知大／山と溪谷社）
- 「65歳のチャレンジ！ヨーロッパ大陸自転車単独横断日記」（中里清志／文芸社）
- 「赤い自転車」（筑紫あかね／リーブル出版）
- 「ガールズ☆ケイリン 夢挑戦」（松瀬学／東邦出版）
- 「沖縄サイクリングガイド 自転車で楽しむ沖縄の旅」（イカロス出版）
- 「自転車完全ガイド 新モデル辛口ランキング2014年」（晋遊舎）
- 「イタリアンスチールロードバイク」（八重洲出版）
- 「クロスバイク購入完全ガイド 試乗インプレッション29台&2014年最新モデル18」（コスミック出版）
- 「未来をつくるこれからのエコ企業 安全な水を届ける自転車一体型浄水器」（孫奈美／汐文社）
- 「起業としての放置自転車ビジネスがあなたを救う！日本一の「放置自転車撤去集団」を作る！」（稲本勝美／ぱる出版）
- 「自転車日和 合言葉「マイペース」がんばらないライドが正解!!」vol.29（辰巳出版）
- 「自転車日和 はじめてだって大丈夫ロードバイクで遊びに行こう！」vol.30（辰巳出版）
- 「自転車日和 寒くても楽しく乗れる！マイペース冬装備選び」vol.31（辰巳出版）
- 「MTB日和 マウンテンバイク+αで山がもっと楽しく!!」vol.17（辰巳出版）
- 「折りたたみ自転車&スモールバイクCUSTOM 小径車のカスタムを楽しもう!!2014」（辰巳出版）
- 「散走読本 自転車の新しい楽しみ方」（LIFE CREATION SPACE）
- 「世界の自転車ミュージアム サイクル・ギャラリー・ヤガミの名品たち」（八神史郎／彩流社）
- 「最新交通事故の法律とトラブル解決マニュアル128」（千葉博／三修社）
- 「交通事故における過失割合」（伊藤秀城／日本加除出版）
- 「弱虫ペダル」1～32巻（渡辺航／秋田書店）
- 「大事なことは自転車が教えてくれた 旅、冒険、出会い、そしてハプニング！」（石田ゆうすけ／小学館）
- 「MOUNTAIN BIKE ACTION」Vol.29-1,2,3,4



2013年度会員の皆さまへ 友の会会員の登録はお済ですか？

友の会会員の登録手続きがお済でない方は、今回の友の会だよりが最終号となります。
ご来館のうえ、新たに会員登録をお願いします。

【休館日】

月曜休館（祝日は開館し、翌平日が休館となります）

5月 7（水）、12（月）、19（月）、26（月）
6月 2（月）、9（月）、16（月）、23（月）

目黒通りを歩いて少し昔の目黒を訪ねる

谷田貝 一男

自転車文化センターが目黒駅近くに移転オープンしたことをきっかけに、ここから目黒通りに沿って多摩川方向へ、自転車に乗ったつもりで少し昔の目黒を訪ねてみましょう。

自転車文化センターがあるビルの前の通りにはかつて都電が走っていて、時には花電車なども運行されました。その都電の車庫が目黒線や地下鉄線の入り口横にありました(写真1)。ちょうど今、再開発のために建物の取り壊しが始まった所です。ここから出発した都電は自然教育園前を経由して清正公前交差点に向かって進んでいました。



写真1 <http://11.pro.tok2.com/~mu3rail/link169-2.html>
「むーさんの鉄道風景 東京都電1966」より
正面が都電の車庫で右側に現在のアトレ2がある

自転車で出発してすぐに山手線を越えると、権之助坂を下り始めます。その坂の途中で右側からくるもう1本の目黒通りと一緒にになります(写真2)。現在、目黒通りは自然教育園の前からこの権之助坂の途中までそれぞれ一方通行化された2本の通りになっていますが、都心に向かう方向の通りは後から造られたもので、直線化されています。



写真2 左側の直線化された道路が後から作られた目黒通り

権之助坂をさらに下り、目黒川を渡る(写真3)と山手通りとの交差点に達します。その交差点脇にあるのが大鳥神社(写真4)で、9月の例大祭や年末の酉の市

には多くの人でにぎわいを見せます。引き続いて金毘羅坂を上りはじめた途中に寄生虫会館があり、その横の通りを左に曲がった先に目黒不動尊(泰叡山瀧泉寺)があり、毎月28日には縁日が開かれ、賑わっています。その境内の先には甘藷先生とも呼ばれ、サツマイモの栽培普及に貢献した江戸中期の儒学者蘭学者である青木昆陽の墓があります(写真5)。国指定史跡になっているこの墓の前の解説には次の事が書かれています。

『8代将軍徳川吉宗の命により、蘭学を学び長崎に遊学した。「蕃薯考」を著し、

救荒作物として甘藷の栽培を奨励したために甘藷先生と呼ばれた。』

これらの寺社の姿は昔と変わりません。



写真3 目黒通りの目黒新橋から見た目黒川



写真4 山手通りとの交差点脇にある大鳥神社



写真5 目黒不動尊の裏にある青木昆陽の墓

引き続いて金毘羅坂を上ると「元競馬場前」というバス停があり、すぐ近くにトウルヌソル号という馬の像が置かれ(写真6)、かつてこの地に競馬場があったという説明が書かれています。その説明によると、明治40年に旧東京競馬場がこの地に開設され、第1回のダービーが開催されました。像になっているトウルヌソル号という馬は、この第1回ダービーで優勝した馬の父馬だそうです。その後、昭和8年に府中にある現在の東京競馬場に移転したことからバス停名と、毎年5月に開催される目黒記念レースに旧東京競馬場を記念した名が残されています。今でこそ馬の像と競馬場があったという説



写真6 トウルヌソル号という馬の像

明が書かれています。この像も昭和58年に設置されたもので、それ以前はなぜここに「元競馬場前」という名称のバス停があるのかわからない人も多かったと聞いています。地図でこの付近を見るとバス停の南側に大きくカーブした道が発見できます。この道こそが、かつてここにあった目黒競馬場のコース（写真7-1）で、第3コーナーから第4コーナーのカーブ（写真7-2・3）を曲がって約300mの直線コースの部分が残っています。自転車に乗りながら当時の競馬場を走っている気持ちになるのもよいのではないのでしょうか。



写真7-1 旧東京競馬場の跡を示す図（目黒区の案内板より）



写真7-2 第4コーナー付近の道路



写真7-3 第3コーナー付近の道路。道幅が狭く、見通しも良くないので、自転車で通るときは注意が必要

再び目黒通りに戻り、南西に進み目黒郵便局の交差点まで来ると、それまで遠方に見えていたタワーが、右手前方の目の前にあるNTT唐ヶ崎ビル（唐ヶ崎とはこのビルのある地域の旧町名です）の上に建つタワーとして見る事ができます（写真8-1・2）。広い範囲に渡ってこのタワーを見ることが出来ることから、地元では目黒タワーと呼んで地域の目印代わりに使われていますが、かつてはこのビルのところに北里柴三郎の研究所がありました。今はその当時の面影は全くありません。このビルを見てしばらく進むと前方にスーパーのダイエーが見えてきます。そのダイエーのある交差点の



写真8-1 北里柴三郎の研究所跡地に立つNTT唐ヶ崎ビル



写真8-2 目黒タワーは広範囲から見る事ができる

直前の左側に目黒消防署碑文谷出張所がありますが、そのすぐ裏を今は暗渠化されてしまった立会川が流れています（写真9）。

立会川といえば、京浜急行線に立会川という駅があります。この駅近くから東京湾までが川として目にすることができる部分で、そのほかはすべて暗渠化されていますが、かつてはすべてのところで目にすることができた二級河川です。そこで、ちょっと寄り道して立会川を少し探訪してみましょう。

立会川の主となる源流は2箇所あります。碑文谷公園内にある弁天池（写真10）と清水公園内にある清水池です。碑文谷公園の入り口は何カ所もあり、



写真9 暗渠化されて遊歩道化した立会川。右側の建物が目黒消防署碑文谷出張所

いずれも駐輪場が用意されています。池の真ん中にある島には弁財天を祭った巖島神社があります（写真11）。何年か前に放火でお社を焼失してしまいましたが、現在は再建されています。池には貸しボートもありますので、これ

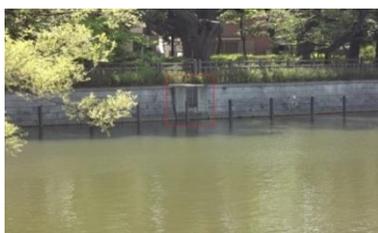


写真10 碑文谷公園内にある弁天池。赤枠内から立会川が始まる



写真11 弁天池内の島に建っている巖島神社

に乗って楽しむのもよいし、近くの老舗のケーキ屋さん（写真12）で一休みするのもよいのではないのでしょうか。ここから立会川に沿って走るには地図（図1参照）が必要です。碑文谷八幡宮から目黒線西小山駅の先までは暗渠化したところが道路から一段高くなった桜並木の遊歩道になっています（写真13）ので、すぐにわかります。



写真12 碑文谷公園近くにある創業62年の老舗ケーキ屋「マッターホーン」。奥には10人が座れるグループ席もある

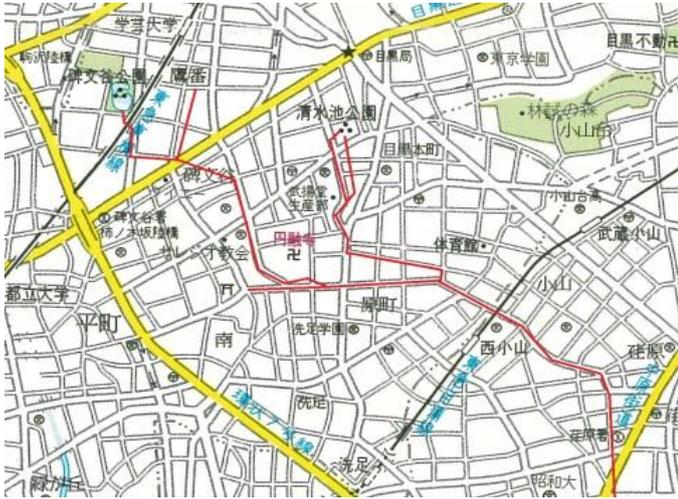


図 1

清水池を源流とした流れとは向原小学校のところで合流します。



写真13 碑文谷八幡宮前から目黒線西小山駅の先まで続く遊歩道



写真14 立会川のもう一つの源流地 道路の右端に流れがあった

この立会川の源流は弁天池と清水池の他にもあります。碑文谷八幡宮入り口付近からの流れがあります。また、目黒通りの目黒消防署碑文谷出張所の右側で弁天池からの本流と合流している流れもあります。鷹番1丁目15番あたり（写真14）にある湧水からの流れです。住宅地のどこにでもある生活道路の横に、かつては立会川としての水の流れを目にすることができたのです。



写真15-1 サレジオ教会



写真15-2 サレジオ教会の裏の道路の下に立会川の流れがある



写真16 碑文谷八幡宮

立会川巡りの途中にはサレジオ教会(カトリック碑文谷教会)(写真15-1・2)や碑文谷八幡宮(写真16)などがありますが、いずれも昔の姿をそのまま残しています。またすすめのお宿緑地公園も昔のままです(写真17-1・2)。かつてこの

一帯は竹林が広がり、多数のすすめが飛び交ったところからこの名が付いたのですが、その竹林も今は宅地に代わってしまいました。



写真17-1 すずめのお宿緑地公園内の竹林



写真17-2 すずめのお宿緑地公園内にあるかつての土地所有者の住居

この公園は昭和56年開園と比較的新しいにも関わらず、公園の中には竹林が残っています。それもそのはずで、かつてここに住んでいた女性が亡くなり、親族がいなかったため、国の所有となり、その後公園化されたことで、こだけが昔の姿を残しているのです。もう一カ

所、ダイエーからサレジオ教会へ向かう道の右側も昔のままの自然が残っています(写真18)が、この姿が消えてしまう可能性もあるのが心配です。



写真18 武蔵野の自然が残っているが、現在は企業の管理地になっている

さて再び目黒通りに戻ります。ダイエーの交差点からどげむ坂と呼ばれる緩やかな上り坂になります。上りきったところを環七通りが通っています。環七通りを渡るとさきほどの上り坂より急な下り坂になります。柿の木坂です。この坂を下りきる直前に東横線の下を通ります(写真19)。しかし、かつては東横線が下を通り、目黒通りが上を通っていました。東横線を越えたのちは、現在の目黒通りとは違う経路を通っていました。自転車店GIANTの向かい側に右斜め方向に延びている道があります(写真20)。この道がかつての目黒通りで、これも暗

渠化された呑川の支流を通過した先の交差点を左に曲がり、都立大学駅前交差点で再び現在の目黒通りに戻りま

す。そのまま呑川本流（写真21）を通過して、満願寺坂を上り進んで行くと多摩川に到着します。



写真19 現在の目黒通りと東横線の位置関係。左端の建物の所にかつてボーリング場があった



写真20 右側の道路がかつての目黒通りで、左側の道路はなかった



写真21 暗渠化されて遊歩道化した呑川

因みにG I A N Tの店の前の東横線の脇にかつて大きなビルのボーリング場がありました。そういえばダイエー本館前にもダイエーサイクル館がありますが、

このダイエーもかつてはボーリング場でした。

こうして目黒通りで様々な昔の風景を探すほかにもう一つ着目することがあります。山の手台地と呼ばれる起伏に富んだ地形を確認することができるということです。台地と台地をきざんで流れる目黒川・立会川・呑川の浸食作用による地形の変化が坂を作ってきました（立会川は目黒通り近くが源流のため、目黒通りでは浸食作用がなく、坂道になっていません）。海拔高度を調べるとよくわかります（図2）。これを見ると自転車文化センター前と環七通りとの交差点と中根交差点が特に高いことがわかります。自転車で通ると何となくその高さは実感できるかもしれませんが、東横線に乗るとさらにその高さの違いがわかります。自転車文化センター前と同じ台地が代官山駅と中目黒駅間のトンネルで、環七通りとの交差点と同じ台地が学芸大学駅と都立大学駅間の切通しになっています。

このようにアップダウンを楽しみながら東京の地形を確認することができるのも目黒通りの特徴の1つともいえます。

図2

